

広報 すぎなみ

Suginami



みどり豊かな 住まいのみやこ

{ 12/15 }
令和4年(2022年)
No.2343

杉並のまちに
もっとつながりを。

90歳にしてクラウドファンディングに挑戦し、今年6月、阿佐谷に「まちサロン おきやんち」を設立した“おきやん”こと味香興郎さん。ご近所同士が気軽に行き来して、自然に助け合う、そんなまちにしたい。その思いは多くの人の共感を呼びました。年齢を感じさせない活力あふれる味香さんにお話を伺いました。



特集

まちサロン おきやんち

人
すぎなみピト

味香 興郎

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) 🌐 区ホームページ: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/> 📄 発行: 杉並区 📖 編集: 広報課

お知らせ

新型コロナウイルスの感染状況によっては、本紙掲載の催し等が変更・延期または中止になる場合があります。最新情報は、区ホームページをご確認ください。

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。



子どもから大人まで、自然に ふれあい、支えあう場に

東海4県を飛び回った第一の人生

—ご出身は三重県だそうですね。どのような場所でしたか？

生まれは山あり海あり田んぼありの小さな村でした。近所付き合いが盛んで、冠婚葬祭のイベントは皆で手伝ったものです。私の結婚式などは、わが家に村中から人が集まり3日間大騒ぎでしたよ。それが私の原風景なのだと思います。



▲第二次世界大戦前 小学生の頃

—ガラスメーカーにお勤めの時にはどのような仕事をされていたのですか？

10年間の工場勤務後、名古屋支店へ転勤し、ゼネコンや設計事務所、工務店等へ製品を売り込んでいました。強化ガラスなど、特殊なガラスを製造しており、販路開拓を求められました。ちょうど東京オリンピックの建築ブームがあって、とても忙しい時期でしたね。東海4県下のゼネコンや工務店を飛び回っていて、今でも私が関わった建物が残っていますよ。東京支社へ転勤した1年後、オイルショックが襲い、景気は傾いていきました。赤字を出している子会社を数カ月で黒字転換させたことが転機となり、次々と立て直しを任せられ、経営不振の子会社等7社の社長となり再建しました。この頃に中小企業診断士の資格も取っていて、いずれは自分で事務所を立ち上げたいとずっと考えていたのです。65歳の時に自らのコンサルタント事務所を設立し、独立しました。

2000社を支えた第二の人生

—杉並区とはどのような関わりがあったのでしょうか？

東京転勤時に与えられた社宅が阿佐谷でした。その後、他区に転居しましたが、娘3人のことを考え、交通の便の良い阿佐谷で中古住宅を購入しました。以来ずっと阿佐谷に住んでいます。当時は忙しくて近所付き合いをする暇もなかったのですが、自分の会社を持ってからは、町内会のお手伝いから始まり、少しずつ地域との関わり合いを深めてきました。

—杉並区商工相談員として、どのような活動をされたのですか？

当時、杉並区中小企業診断士会に入っていたことがきっかけで、杉並区商工相談員に任命していただきました。日に4社ほどの相談を受け、13年間でおよそ2000社を支援してきました。創業や融資、企業再生のお手伝いが主です。井草地区の「花と緑のフラワーロード事業」では、地域の道路沿いに花を植えたプランターを並べ、地域の美化と活性化に貢献することができました。今でも誇りに思っている事業です。その他、NPOや一般社団法人設立の支援



をしたり、町会の総務部長を務めたりと、あれこれ関わらせていただいています。自分では特に忙しくしているつもりはないのですが、困っている人がいたり、何か問題を見つけたりと、自然と体が動いてしまうのかもしれない。

90歳から始まる第三の人生

—今年、クラウドファンディングに挑戦されました。きっかけは何だったのでしょうか？

私の住んでいる阿佐谷地区には、「阿佐谷セブタまつり」や「阿佐谷ジャズトリート」など、イベントがたくさんあります。商店街には、歴史あるお店から若い方が営む新しいお店までさまざまあり、楽しく過ごすことのできるまちです。ただ、危機感も持っていました。相続等で土地や家屋は売却され、跡地を細分化し建売住宅等が建設。土地が細かく区切られ、以前から住んでいた方と新しく住む方との交流が生まれにくいのです。高齢者の一人暮らしも増えていますし、この状況で災害が起こっても、住民同士が助け合うことは難しいのではないのでしょうか。自分が生まれ育った村を思い返し、「このままではいけない」と思っていました。自宅隣の倉庫を「教室」として利用できないか、娘から相談があり、その時に倉庫を「まちサロン」や「教室」として利用して、「このまちに、みんなが集う場所をつくろう」とひらめきました。他の地域のまちサロンをいくつも見学し、「おきやんち」のイメージを膨らませていきました。

—クラウドファンディングは大変でしたか？

クラウドファンディングに関する知識はありませんでした。しかし自分で行うのは初めてですから、やはり大変でした。2カ月間のクラウドファンディング中、毎日ネットをチェックし支援があると、すかさずお礼のメールを出しました。本名ではなくニックネームで支援してくださる方もおり、相手が誰なのか分からないこともありましたが、娘のつながりで支援していただいた方が多く、感謝の言葉もありません。チラシやウェブサイトを作ってくださる人、実際の工事を手伝ってくださる人、寄付金を持って訪ねてくださる人……。改めて人と人のつながりを実感することができました。本当に感謝しています。



—クラウドファンディングでは、300万円以上が集まりました。

当初の目標だった200万円を大幅に超え、本当に驚きました。杉並区の方だけでなく、北海道から沖縄まで、全国の方から支援をいただきました。おかげで、「90歳の誕生日にオープンする」という約束を果たすことができました。オープニングセレモニーには、30名以上の方が参加されて、会場がはち切れんばかりに……。きっと、皆さんふれあいの場を求めているのでしょう。その思いに応えられる場所にしていきたいですね。

乳幼児から高齢者まで

—「おきやんち」ではどんなイベントをされているのですか？

水曜日以外は開いているので、ふらっと立ち寄りの方が多いですよ。学校が終わる時間になると、子どもが遊びに来て、本を読んだり、保護者と待ち合わせをしたりする子もいます。イベントだと、ピアノに合わせてみんなで歌う「笑顔で歌おう会」が人気ですね。特にテーマを決めず、気軽にお茶を飲みましょうという「きずなサロン」は、いつも20名ほどが集まって満席になります。落語にヨガに、いろいろな方がさまざまな目的で使ってくださいました。また、いざという時のために防災訓練も行っています。



すぎなみビト
interview
味香 興 郎
まちサロン おきやんち

プロフィール：味香興郎（あじか・おきお）昭和7年、三重県生まれ。ガラスメーカーにて、名古屋・東京で勤務。関係会社7社の代表取締役を歴任し、会社経営の経験を積む。65歳の時に、自らの会社を立ち上げ、中小企業診断士として約2000社の企業のサポートを行ってきた。東京赴任の折、杉並区が気に入り住居を構える。杉並区商工相談員など、区との関わり合いも深い。著書に「中小企業は社長で決まる」（金融ブックス）。90歳になる令和4年、クラウドファンディングに挑戦し、阿佐谷に「まちサロン おきやんち」を設立。地域に根差した活動を続けており、区制施行90周年記念式典で感謝状を受賞。

—これからどんな場所にしていきたいですか？

理事やスタッフの方と話し合ったことがあるのですが、「いろいろな世代」「リラックスできる」「笑い声が聞こえる」というキーワードが出てきました。何をやるわけでもなく、ふらっと気軽に立ち寄ることのできる場所が理想です。私が当初からずっと考えてきたのは、「乳幼児から高齢者まで」ということでした。誰もが分け隔てなく集まることのできる場所にしていきたいのです。クラウドファンディングの際に、「私のまちにもこんな場所があればいいのに……」というメッセージをいくつも受け取りました。不可能ではないと思うのです。まず「おきやんち」がその成功例を示して、全国に同じような場所が増えればと願っています。

—杉並区は今年で区制施行90周年を迎えました。どんなことを期待されていますか？

杉並区で創業や事業再生のサポートをするようになって、改めて杉並区について調べました。杉並区は地域を7つのブロックに分けており、それぞれに特色がありますね。緑があり歴史ある建物がありお祭りがあり……。本当

に豊かな場所だと思います。「東京にこんなまちがあるのか」と驚かれるような、住民が誇りに思えるような、そんなまちづくりを期待しています。私が杉並区に暮らすようになったのも、杉並区と同じ90歳というのもご縁です。たくさんの方とのつながりを大切に、これからも少しでもまちに貢献していきたいですね。



▲おきやんち運営メンバー

ほっとできる
みんなの居場所

まちサロン おきやんち

まちサロン おきやんちは、阿佐谷地区の誰もが安心して訪れることのできる多世代交流および地域活動の場です。子どもから高齢者までみんながほっとできる「みんなの居場所」でありたいと願っています。さまざまなイベントを行っていますのでお気軽にお立ち寄りください。

アクセス
住所：〒166-0001 阿佐谷北3-7-13
電話番号：090-2548-5652
ホームページ：<https://www.okiyanchi.net>
（右2次元コード）
定休日：水曜日

